

Ⅲ 全国学力・学習状況調査の結果

1. 小学校第6学年の状況（国語・算数・理科）について

(1) 芦別市全体第6学年～調査結果の全国・全道との比較について

	国語	算数	理科	国語				算数					理科			
				知識・技能 関する事項に 関する特徴	思考力・判断力・表現力 問うこと	書くこと	読むこと	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	エネルギー	粒子	生命	地球
芦別市	59	58	63	61.0	60.3	38.8	60.8	64.1	62.9	設 問 な し	43.5	62.1	47.4	64.1	72.4	67.2
北海道	64	61	63	68.7	63.7	47.4	65.2	67.7	62.5		48.3	66.1	51.2	60.4	74.1	64.1
全 国	65.6	63.2	63.3	69.0	66.2	48.5	66.6	69.8	64.0	51.3	68.7	51.6	60.4	75.0	64.6	

□□分析結果□□

- ◆国語 全国の平均正答率との差は－6.6%で低いといえる。領域別では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」が全国に比べ特に低い。問題ごとの無回答率はほぼ全国と同様だった。
- ◆算数 全国の平均正答率より低い。領域別では、「図形」がほぼ全国と同様だったが、「変化と関係」が特に低かった。評価の観点では、「知識・技能」の問題で正答率が全国より低かった。問題ごとの無回答率はほぼ全国と同様であった。
- ◆理科 全国の平均正答率との差は－0.3%でほぼ同様だった。領域別では、「粒子」「地球」の領域は全国よりやや高かったが、「エネルギー」「生命」の領域は全国よりやや低かった。問題ごとの無回答率は全国とほぼ同様であった。

学校改善プラン（芦別市立上芦別小学校）

1. 実施期間 令和4年8月～令和5年4月

2. 令和4年度学力・学習状況調査の結果概要（学力）

国語	算数	国語		算数		理科		地球	
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	図形	変化と関係	エネルギー	粒子	生命	地球
高い	やや高い	○	○	○	○	○	○	○	○
ほぼ同様（上位）	同様	○	○	○	○	○	○	○	○
ほぼ同様（下位）	やや低い	○	○	○	○	○	○	○	○
低い	相当低い	○	○	○	○	○	○	○	○

◆国語 全国の平均正答率よりやや低かった。領域別では、「知識・技能」は全国より高かったが、「思考力・判断力・表現力」領域が全国より低かった。

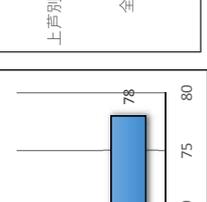
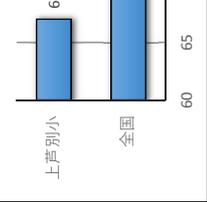
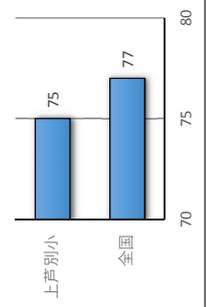
◆算数 全国の平均正答率よりほぼ同様（下位）だった。領域別では、「図形」が全国を上回ったが、「測定」「変化と関係」がやや全国より低かった。記述問題の無回答率が全国より10ポイント多かった。

◆理科 全国の平均正答率をやや上回った。領域別では、「粒子」の領域が全国より高かったが、「生命」の領域が全国よりやや低かった。

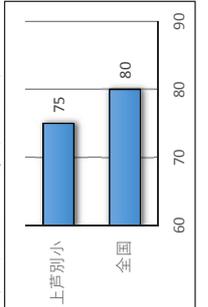
3. 令和4年度学力・学習状況調査の結果概要（児童質問紙）

(1)主体的に学習に取り組む態度（授業改善の視点）

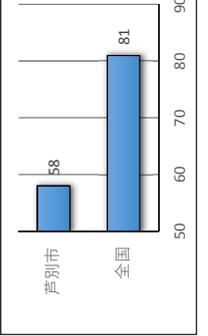
①授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。（主体性）



②話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている。（話し合い活動）

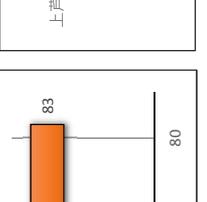
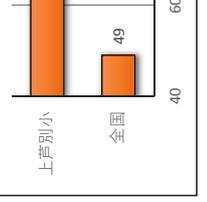
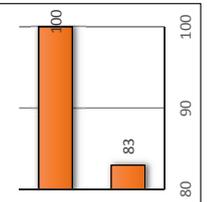


④算数の授業内容はよくわかる。（授業内容の理解）

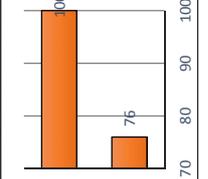


(2)ICTの活用

③学習した内容について、分かった点、よくわかった点、よくわからない点 ①授業でICTを週1回以上活用している。（振り返り）



④学校で、授業中に自分で調べたり、発表する場面でICTを週1回以上活用している



4. 改善に向けた取組

(1)数値目標

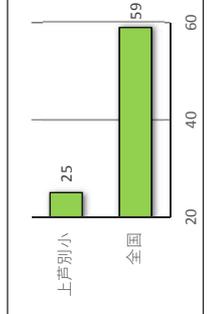
- ①令和5年度全国学力・学習状況調査において、正答率全国平均以上
- ②1月実施の市内統一CRTにおいて、全学年全教科、全国比100%以上
- ③検定算数教科書は受検率80%以上。
- ④毎日の家庭学習の習慣化率（学年×10分+10分）80%以上
- ⑤アンケートで「はじめは絶対読まれない」と回答する子100%。
- ⑥アンケートで「読書が好き」と回答する子が80%以上。
- ⑦アンケートで「自分には良いところがある」と回答する子が90%以上。

(2)具体的な改善策

- ①授業づくり～指導方法等の工夫改善
 - ・授業交流月間等お互い学び合う研修体制を構築することで「見通す」「振り返り」等の指導過程の統一を図る。（声別スタンダードの理解・定着）
 - ・日々の授業改善を積み重ね、研修部が中心となりタイムマネジメント、発問の工夫、評価の充実、板書等教師力向上を目指すことで、その効果を児童の学力向上に結び付けていく。
 - ・タブレット等ICT環境を活用し、個別最適な学び、協働的な学びの充実を図る。
 - ・メンター研修等を取り入れ、若手教員の育成に力を入れる。
- ②環境づくり～授業以外の学習の機会や時間の充実
 - ・「学習規律の徹底」に取り組み、学びに向かう力を育む学習集団づくりを構築する。
 - ・ペアワーク週間、上小っ子ドリル等を活用し、基礎、基本の定着に取り組む。
 - ・長期休業中の学習サポートや放課後学習等を実施し、個々の学習到達に応じた学びの充実に努める。
- ③習慣づくり～自ら学習する習慣、生活リズム～
 - ・全国学力、学習状況調査及び児童アンケート等の分析結果を保護者に公表し、家庭における学習習慣や読書習慣、生活リズムの確立を促す。
 - ・家庭学習ががんばりシート等をもとに家庭学習の習慣化に努めるとともに自学ノートの取り組み、交流し児童の意欲を高める。
 - ・朝読書、ブックトーク、市立図書館との連携等を通して、読書活動の充実を図る。

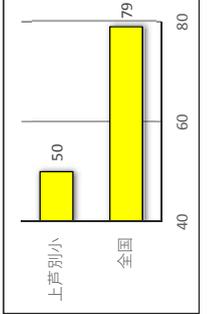
(3)家庭学習の習慣化と読書

①普段の勉強時間（1時間以上）

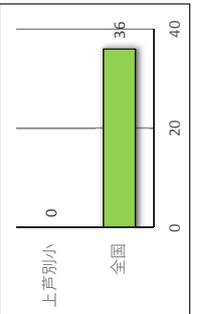


(4)豊かな心の育成

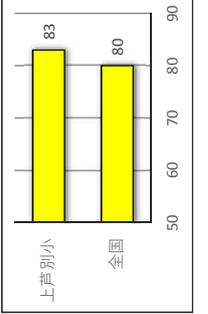
①自分にはよいところがある



②読書の時間（1日30分以上）



②将来の夢や目標を持っている



2. 中学校第3学年の状況（国語・数学・理科）について

(1) 芦別市全体第3学年～調査結果の全国・全道との比較について

	国語	数学	理科	国語			数学				理科				
				思考力・判断力・表現力			知識・技能	数と式	図形	関数	データの活用	エネルギー	粒子	生命	地球
				聞話すこと	書くこと	読むこと									
芦別市	64	41	44	58.7	41.3	60.9	67.8	42.6	38.4	37.0	47.1	39.1	47.4	49.1	37.3
北海道	69	49	49	63.5	44.5	67.3	72.1	52.0	43.0	42.3	56.5	41.9	51.2	56.8	43.6
全国	69.0	51.4	49.3	63.9	46.5	67.9	72.2	57.4	43.6	43.6	57.1	41.9	50.9	57.9	44.3

□□分析結果□□

- ◆国語 ・全国の平均正答率より－5.0%と低かった。領域別では、「読むこと」が全国より－7.0%で特に低かった。記述式の問題では正答率が全国比で－10%ほど低く、全体の正答率を押し下げている。記述式の問題での無回答率が23.9%と全国の12.6%より11%程度高かった。
- ◆数学 ・全国の平均正答率より－10.4%とかなり低い。領域別では、特に「数と式」「データの活用」が全国比でそれぞれ－14.8%、－10.0%とかなり低かった。記述式の問題での無回答率が32.6%と全国の22.1%より10%程度高かった。
- ◆理科 ・全国の平均正答率より－5.3%と低かった。領域別では、平均正答率で「生命」が全国比－8.8%、「地球」が－7.0%低かった。記述式問題の無回答率は、全国とほぼ同様だった。

学校改善プラン (芦別市立啓成中学校)

1. 実施期間 令和4年8月～令和5年4月

2. 令和4年度学力・学習状況調査の結果概要 (学力)

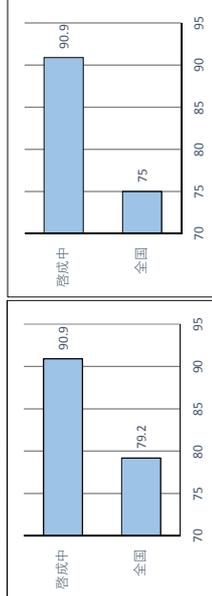
	国語	数学	理科		英語		数学			理科						
			国語	数学	物理	化学	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	数と式	図形	関数	データの活用	エネルギー	粒子	生命	地球
	相当高い	○	○	○	○	○	○									
	高い															
	やや高い															
	ほぼ同様(上位)															
	同様															
	ほぼ同様(下位)															
	やや低い															
	低い															
	相当低い															

- 分析結果
- ◆国語 全体的には、全国の平均正答率より高い。領域別では、全国と比べ「話す・聞く」が全国より相当高いが、「情報取扱い」領域が全国とほぼ同様(下位)である。
- ◆数学 全体的には、全国の平均正答率よりやや高い。領域別では、全国と比べ「関数」「データの活用」が高く、「数と式」がほぼ同様(下位)である。
- ◆理科 全体的には、全国の平均正答率と同様である。領域別では、全国と比べ「生命」が相当高いが、「地球」が相当低い。

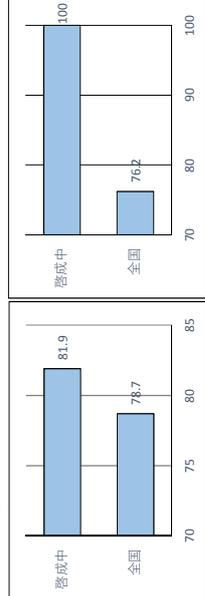
3. 令和4年度学力・学習状況調査の結果概要 (生徒質問紙)

(1)主体的に学習に取り組む態度 (授業改善の視点)

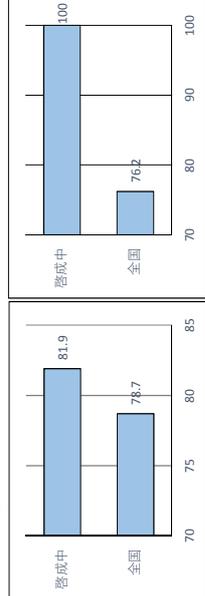
①授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。(主体性)



②話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている。(話し合い活動)

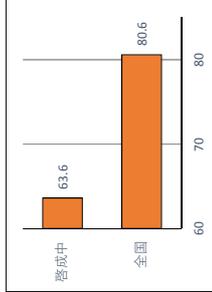


④数学の授業内容はよくわかる。(授業内容の理解)

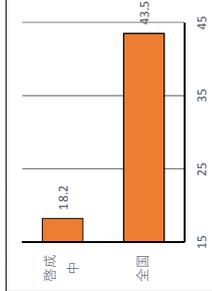


(2)ICTの活用

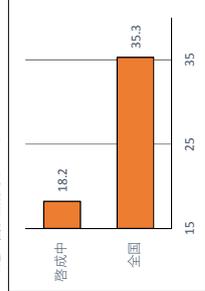
①授業でICTを週1回以上活用している。



③学校で、友達と意見を交換する場面でICTを週1回以上活用している。



④学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面でICTを週1回以上活用している。



4. 改善に向けた取組

(1)数値目標

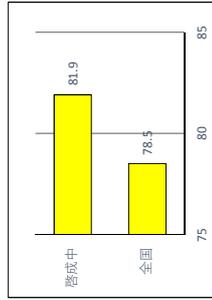
- ①全国学力・学習状況調査において全国平均以上とする。
- ②標準学力検査(CRT)において標準化得点100以上とする。
- ③生徒による授業評価(生徒アンケート)で、A/B評価割合85%以上とする。
- ④毎日家庭学習する生徒の割合80%以上とする。
- ⑤英検・漢検等の受検、いずれか1回以上の受検を100%とする。
- ⑥生徒による授業評価で全項目平均3.0以上を目指す。
- ⑦学校評価アンケートでA/B評価割合80%以上[生徒・保護者]とする。
- ⑧ICT活用の調査項目で、全国平均以上とする。

(2)具体的な改善策

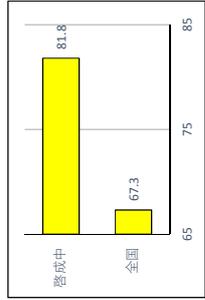
- ①「対話的・主体的で深い学び」を実現する組織的な授業改善
 - ・授業スタイル(声別スタンダード)の定着・修正・実践を行う。
 - ・「主体的な対話」を大切にしたい授業づくりを推進する。
 - ・「振り返り」を大切にしたい授業実践を行う。
 - ・ICT機器の授業での効果的な活用のために、授業交流期間を設定し指導力の向上を図る。
- ②家庭と連携した学習習慣・生活習慣の確立
 - ・家庭と連携した取組を進め、家庭学習の定着を図る。
 - ・各種検定への参加を促し、達成感をもたせ、主体的に学ぶ態度を育成する。

(4)豊かな心の育成

①自分にはよいところがある

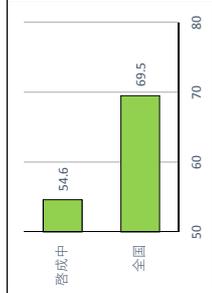


②将来の夢や目標を持っている



(3)家庭学習の習慣化と読書

①普段の勉強時間(1時間以上)



②読書の時間(1日30分以上)

